

産業春秋

進学教室の先生がツアーを組んで歯車工場を訪ねると聞き、同行した。栃木県足利市の“足利流 5S ツアー”。メーカー関係者にはおなじみと思うが、5S は「整理・清掃・整頓・清潔・^{しつけ}躰」の頭文字だ。工作機械が並ぶ中、参加者は従業員手製の棚や台車に傾斜を見つけて「これなら腰をかがめず、道具が取り出せる」と感心。片づいていない“問題箇所”を上司が掲示した写真に興味を示す。玄関先の地面に描いた等間隔の輪について質問が飛び、工場側は「朝礼後にストレッチ体操をする従業員の立ち位置を決めた」と説明する。現場をより良く機能させる 5S。足利商工会議所が音頭をとる「足利流 5S」は、期限を切らず、採点せず、自由な発想で意識改革を促すのが特徴。史跡・足利学校にちなんだ啓発活動も盛んだ。ツアーを主宰したのは、地元の進学教室・開倫塾塾長の林明夫さん。「喜んで働ける職場づくりを模索していて 5S と巡り合った」と語る。視察先の菊池歯車の社長、菊池義典さんとは経営者仲間だ。在庫圧縮から品質向上、町おこしまで話は尽きない。効率や働きやすさが求められるのはサービス業も同じこと。「製造業に学び、世界的な“5S クラスタ”にするため、同志と画策中」と林さんは目を輝かす。